

表富士における森林の復元活動

－ 2004 年の活動報告

中村華子

当クラブでは 2003 年 4 月から 5 年間、関東森林管理局静岡森林管理署と「山の自然学クラブ・富士山森の復元活動」という協定を締結して、富士山の国有林で森林復元活動を始めました。ここに、2004 年の活動報告と 2005 年の活動計画について報告いたします。

協定林について

場所：富士山国有林 200 林班た小班 4.56 ha

協定活動内容：「観察・記録・刈り出しなどの手入れを行い、従来の富士山の植生への復元・最善の育林方法の実施を目的とする行動」

「環境教育を目的とした活動」

《2004 年の活動報告》

日程	作業内容	開催形態	参加人数	内訳		その他
				宿泊地	会員	
2004年4月3日	大森氏保存の種子を播種	日帰り	2	2	0	
2004年 4月10-11日	冬を越した植林地の状況確認 調査plotの区画ロープ張り直し	日帰り	3	2	1	
2004年4月29日	地元団体の植林イベントに参加 播種前の圃場整備	日帰り	1	1	0	会員山田氏に現地の方々を紹介してもらう
2004年5月9日	2003年10月に採取した種子を植林地へ播種	日帰り	11	4	7	
2004年 5月22-23日	9日に播ききれなかった種子の追播 植生試験地への播種 ヒノキを補植	2日間 裾野	3	2	1	
2004年6月13日	下刈り作業 実生の調査	日帰り	6	4	2	
2004年 7月3-4日	周辺見学会－富士登山（富士宮口） 下刈り作業・下刈り試験地調査 実生の調査	2日間 国立青年の家	9	4	5	
2004年 8月7-8日	下刈り作業 実生調査	2日間 田貫湖	4	1	3	
2004年8月29日	9月下見（結実状況、幕岩近辺）	日帰り	2	1	1	
2004年 9月4-5日	下刈り作業 実生調査 周辺見学会－幕岩周辺	2日間 富士教育研修所	12	7	5	
2004年9月20日	現況確認 10月下見（種子結実状況）	日帰り	1	1		
2004年10月17日	10月下見（種子結実状況）	日帰り	2	1	1	
2004年 10月23-24日	種子採取・精選作業 （協力：東京農業大学 治山・緑化学研究室）	2日間 富士教育研修所	26	9	15	225回現地講座として開催 *後に報告を掲載

《2005 年活動計画》

2005 年からは、恒例行事をいくつか決めて当 NPO 法人主催での行事としたいと思っています（5 月の総会や理事会でご承認いただきます）。ようやく、本来の NPO の役目（会員のための行事ではなく、社会で活動する）を果たせるようになってまいりました。会員のみなさまには、できることから助けていただきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

そのほか、月に一度程度は会の定例活動として現地作業や調査を行いに参ります。ここに書かせていただいたもの以外の日程や内容については、山の自然学クラブに関係のある方々はどなたでも、ご自分の試してみたいことを自由になさることができます。どんだんご提案・実行して下さいますようお願いいたします。

会の活動日は基本的に 4 月から 11 月の第二日曜日を活動日としています。幹事ほか何人かは土曜日からおります。このほかの日にも現地へ行っていることが多いですので、訪れる方はご一報下さい。ぜひ一緒にさせていただきます。

=NPO 法人山の自然学クラブ 行事（会員外主体）=

4 月 23-24 日 --- 種播き・植樹

自分たちの手で取った種が現地へ戻っていく日です！

会員以外の方も呼んで、楽しめるようにやりたいと思います

7 月 9-10 日 --- 下刈り

土壌の肥沃な私たちの植林地では一番大切な作業となります

ストレスのたまっている方や非日常を体験したい方にもオススメ？

10 月 22-23 日 --- 種採り

木が植えたかったら自分たちで調達することから始めなくてはけません

紅葉のきれいな季節は樹木観察にも最適です。お天気と相談しながら行動します

=会員主体による協定林育林作業=

4 月 10 日 植栽地整備、植生調査、測量 ほか

5 月 15 日 2004 年播種の実生調査、植栽地整備 ほか

ススキが出てくる前の見通しのいい時期にやりたいことを 4-5 月のうちに行います

6 月 12 日 下刈り ほか

8 月（日程未定） 下刈り ほか

梅雨がおわるとススキの季節です。植栽木の食害状況（草が多すぎても少なすぎても

ひどくなると考えられます）や土地の様子を見ながら下刈り作業を行います

9 月 11 日 2004 年播種の実生調査・樹木種子結実状況下見 ほか

11 月 13 日 植林地整備（冬を越す準備） ほか

何度かいらしていただいた方には様子がお分かりになるものと思いますが、現地でやりたいことはたくさんあります。みなさまからもどんだんご提案下さい。次に、表富士の活動に関連して開催した、225 回現地講座の内容を報告致します。

山の自然学講座第 225 回現地講座 表富士・種子採取

講師 : 福永健司先生（東京農業大学）

日程 : 平成 16（2004）年 10 月 23-24 日

宿泊地 : 富士教育研修所 静岡県裾野市下和田 656

参加人数 : 26 人（日帰り 3 名、非会員 7 名、学生 7 名）

【主な内容：種子採取】

2005年以降に現地へ導入する植物の種類を増やすため、現地の近くの自然林にて自然植生を観察するとともに、自生樹木の種を採取しました。

多くの木には種子の豊凶には波があり、毎年たくさん実るわけではありませんので、昨年ならなかった樹種は今年の”なり具合”を楽しみにしていました。昨年・2003年はブナが10年ぶりの大豊作でした。バケツにいっぱい”そばぐり”（ブナのドングリのことをこう呼びます）をとることができましたので、今年はどうだろうと楽しみにしていました。9月ころから何度も現地に行って状況を見たり、実のなっている樹種を探したりしたのですが...

(1)今年の夏は早くから暑く、不順な天候が続いて実の成熟度が安定していませんでした

(2)9月に上陸した台風の影響で、高木の種子は多くが熟す前に落ちてしまっていました

9月には、落ちていたミズナラの種をかりうじて少しとることができましたが、それ以外の高木は壊滅でした。しかし森林内に生育するような中低木類、つまり台風などの影響をあまり受けないような樹種は大丈夫でした。このような樹種はもともと、毎年安定して実をつけるものが多く、今年もそこそこの量の実をつけていました。

マユミ・ガマズミ・コバノガマズミ・ミヤマイボタ・ヤマボウシ・ムラサキシキブ などです。

紅葉の季節というのは植物の観察には非常に適している季節です。しかしたいは紅葉している美しい葉について目がいてしまうものです。ここで「実」を見る習慣をつけることで、植物の世界は非常に広がります。青山の講座などで多田先生からお話を伺いましたが、お花や実の観察の仕方を覚えることは、生命や遺伝子をどのように残していくか、そんな植物の命の様を見ることができるからです。赤い実は鳥が好む、というところまではみなさまご存知ですが、では赤い実ならみんな同じようについているのかどうか。

いいえ、まったくさまざまです。

○大きな実の中にいくつもの種子が入っているもの

○房になっていて、採ろうとするとみんな一緒にもげてしまうもの

○房になっているのにひとつひとつの実の熟し方が違うもの

○実がつり下がっていて枝から直接ならないもの

この違いがどのようなところに由来しているのか、教われば答えは簡単ですが、実際にその実がなっているところを見ると、地形やほかの樹木との位置関係、実のなる枝の場所など、すばらしい進化の不思議を感じます。

2日目には、冬の季節を控えているため、凍上による土壌浸食の防止作業など、必要な作業をみんなで行いました。また、大森さんが用意した資材で、今回初参加の焼津チームが、「小鳥のえさ台」を見事にこしらえていました。これはすごかった、一日であんなものができてしまうと思いませんでした。

次回行ったときにどうなっているか楽しみです。

そして、前の週にとったミズナラの種をみんなで播きました。量はほんの少しですが、あの種たちが元気に育ってくれるように、心から祈っています（来春の楽しみができました）。

* 今回採取した種はすべて、東京農業大学 治山・緑化学研究室にて精選・管理・保存して下さっています。種子の保存までに必要な工程は非常に繊細で、煩雑ですが、そのほとんどを研究室の方々にお手伝い頂いています。採取した種子の大半は富士山の自然に戻していきませんが、大学の研究室での実験にも利用して頂くことになっています。

この度の多大なるご協力をここに記し、深く感謝します。